

県政報告

～「現地現物」そして「安全はすべてに優先」～

平成29年10月27日
しんかい正春事務所
〒444-0837
岡崎市柱6丁目5-5
TEL/FAX
(0564)58-0128

私の三つの活動方針

この『県政報告』の標題にも記載してありますように、私は『現地現物、そして安全はすべてに優先』を活動テーマに掲げ、議員活動に取り組んでいます。

県議に当選して2年7か月が経ちましたが、この活動テーマをより具体化するため、現在、次の三つの活動方針をもって現地課題に対処しています。

- ① 先ずは、現地課題に対して「百聞は一見に如かず」の立場から、納得のいくまで自分の目で見て、耳で聞いて、肌で感じて、その真因を確認する。
- ② 自分自身の既有的知識や経験を生かすと同時に、県の最新情報を把握しながら、現地課題の改善策を自らの言葉で県に提案する。
- ③ 常日頃から様々な行事等に参加し、地域の「人」「事」「物」についての実態を把握しておく。



岡崎学区での県政報告会（9月23日）

皆様におかれましては、ご要望・ご意見をお寄せいただければ幸いです。全力で対応してまいります。

県議会議員 新海 正春

9月の議会報告 建設委員会で質問しました

鹿乗川・砂川の河川整備について

質問

- ① 平成29年1月に県が発注した岡崎市内の鹿乗川の河川改修工事現場で、JR東海道本線の線路脇が陥没し、堤防の一部が崩れる事故が発生。事故原因の調査結果やその後の安全についての見直しをしたことは何か？
- ② 砂川で一番難しい箇所と言われるJRの橋梁部の整備に関して、鹿乗川の事故の影響と今後の砂川の整備の進め方は？

回答

- ① 鹿乗川の事故の原因は、地下水の流速や流向に特殊性を有していたことに加え、地下水を止めるための地盤改良工事計画の不備や、施工上の不具合が複雑に重なったことなどがある。
工事再開に向けた原因調査と再発防止対策に時間を要して、工事の遅れが生じたが、JR東海が工期の短縮を検討した結果、当初の完了予定年度から遅れは生じないと聞いている。
県としては、周辺の宅地や河川の護岸への影響を確認する必要があることから、沈下量等の計測結果をJR東海側に依頼し、報告を受けている。
- ② 砂川のJR橋梁については、鹿乗川同様、長期間の工事となることが予想される。事故から得られた知見を生かした概略設計を進めるとともに、この区間の最下流の砂川橋の詳細設計を実施し、次年度以降から改築を進めていく。

県道福岡線の進捗について

質問

藤田保健衛生大学岡崎医療センターへのアクセス道路となる、福岡線の土地区画整理事業の区域境から、県道安城幸田線までの未整備区間の早期事業化が必要であると考えます。福岡線事業化に向けての現状と今後の取り組みは？

回答

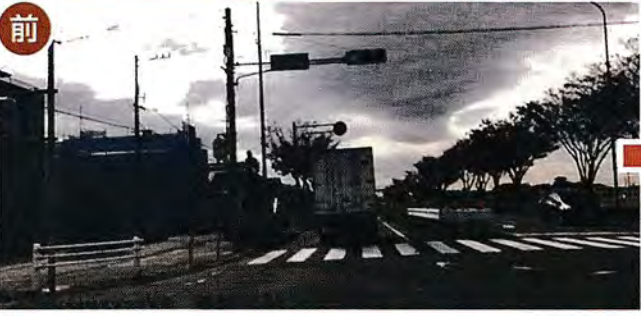
未整備区間内や土地区画整理区域内については、施工者である組合が北から順次、整備を行っている。県道安城幸田線との交差点部に右折レーンを設置するため、計画幅員を拡幅する都市計画変更が必要となり、年度内の都市計画決定に向けて手続きを進めている。また、交付金による来年度新規事業化に向け、国と調整を行っている。

来年度は、都市計画事業の許可を取得した後、地元岡崎市の協力を得ながら、用地回収に必要な調査を進めていく。



実現しました 将来を見据え、現実を直視し、地道に取り組んでいきます

① 衣浦岡崎線の幸田石井線交差点から西尾東 IC 方向の 4 車線化



② 鹿乗川（筒針町）護岸改修



現在、取り組んでいます

**① 連尺小・城北中学校前の歩道橋の
リニューアル（12～1月）の決定**



- ② 矢作南小学校前の歩道橋の応急修理**
- ③ 砂川拡幅工事に合わせ、四橋の架け替え推進**
ア、2 橋の概略設計
イ、砂川橋は設計が完了し、仮橋用地の検討中
- ④ 河川の護岸修繕及びのり面の修繕**
ア、安藤川の高園橋～中井橋区間（岡崎市中島）上流部（坂左右町）
イ、相見川の鮒切橋上流（幸田町坂崎）
熊谷橋上流の堰付近（高力）
ウ、尾浜川の御櫻橋下流（幸田町菱池）
- ⑤ 鉢地川の堆積土砂の撤去**
ア、みろく橋付近（岡崎市保母町）
イ、狩又橋の上流区間（池金町）
- ⑥ 破損が著しい道路の舗装修繕**
ア、岡崎幸田線の幸田小前から欠間交差点まで
イ、幸田幡豆線の桐山交差点から西尾市界付近まで

〇〇〇

畜産振興議員連盟による海外調査に参加
★リトアニア・ポーランド・ロシア★

〇〇〇

7月7日から1週間、ヨーロッパ3か国を視察してきました。主な視察は、次の通りです。

- リトアニア→アルヴィでの七面鳥の加工技術及び販売の視察
- ポーランド→カシア ジャンクーン農場での酪農・乳製品加工の視察（写真下・左）
- ロシア→レニングラード州政府との意見交換（写真下・右）、ガラクティカ乳製品工場の視察



声 **小豆坂学区 安藤 駿 様**

私は、本年10月1日に小豆坂学区の後援会長になりました。これまで後援会の会合に出席してきましたことは、年間計画に基づいて、3～4か月毎に会議や諸行事を実施してきましたことです。また、新海議員は声が大きく聞き取りやすく、話も要点を押えて大変好感がもてます。事務所にも何回もお邪魔させていただきますが、事務所の方も身近に感じられます。

私は「文句の安藤」と言われていますが、今後は後援会学区を一つでも増やすことなど、地道に取り組んでいきたいと思っています。

早いもので、後僅かで2回目の選挙があります。新海議員には地域の願いや意見をしっかり受け止めていただき、私たちはその活動環境を支えていければと思っています。